

い
ま
の
こ
ろ
に
あ
る
こ
ろ
に
あ
る



▲福岡で頑張っているユニットグループ「博多屋・本店」と、専用のバス

先月号に続いて、私が今一番関わっている事について少々。

福岡で頑張っているユニットグループ「博多屋・本店」のメンバーの一員に、バスが一台加わったのである。

「博多屋・本店」の一員でもあるリュウジさんこと井上雅之さんが、今年4月に発売した『博多川恋唄』のキャンペーン用として使う為の車を

プレゼントしてくれた。

東京・渋谷の界限では、J-P-O P系の宣伝カーをよく見かけるが、演歌系でこれ程大きいキャンペーンカーは一度も見えた事がない。そのバスが福岡に現れた。

9月の頭に、リーダーである二階堂健さんから電話があり、10月に福岡へ行き、バスと対面してきたのである。

自分達の手ですべてやり遂げるという方針の上、作り上げてきたグループだけに、彼のこの行動と情熱に全員感動し、更にやる気を出した次第である。こんな映画のような事が実際起こるのだ。バスはバスである。しかし、心がバスを運んできたのである。リュウジさんの心が。

メンバーは皆コツコツ生きてきた人達で、その人生に誇りを持ち、自分達の歌声をCD化したいと思っ

て、歌に励んできた人達である。

普通の駐車場には入れないくらい大きなバスが、これから彼らに乗せ、キャンペーンの度に福岡の街を、いや九州を走る。

福岡空港に着いた時、真つ先に「健ちゃんから、バスが来ちゃった、と聞いてびっくりしましたよ」

出迎えてくれた二階堂さんに云った。

「そうなんですよ。僕もびっくりしまして。はい。それも突然でして。はい」

そんな話をしながら、その日、2年に1回行っている、日本歌謡大学の卒業講習会の会場に向かった。

バスを見に来たのも大きな目的だが、この講習、勉強会がまた福岡での大事な行事なのである。

歌の普及と講師の育成。そのコンセプトを元に、今、九州全土で広がっている歌の勉強会である。日本全国にはたくさんのカラオケ教室がある。それぞれが、それぞれに満足すればいいだけの話ではあるが、やる以上はレベルアップをと、この福岡の地に作ったのである。その名もズバリ、歌謡大学。

授業が終わり、「さあ、先生乗りましょう」と、学習センターの駐

車場に停めてあるバスまで案内された。バスの車体には「博多屋・本店」と書いてある。まるでドラえもんの国からやってきたようなバス。私はそのバスが可愛くて、嬉しくて仕方ない。

「では、お邪魔します」とバスに云つて、後ろの座席に座った。メンバー全員が次々と乗り込んでくる。みんな思い切り幸せそう。まるで町内会の旅行のようである。

「健ちゃん、これからどこへ行くの?」

「はい、少し行った所に大きな駐車場のあるレストランがあるので、そこで記念撮影をして……はい」

ププーと音をたてて、バスは走り始めた。



たきのえいじ

本名・滝野英治

1949年8月31日、愛媛県大洲市生まれ。作詩・作曲の両分野で活躍中。演歌歌謡曲にあつては主に作詞家としての活動が目立ち、五代夏子、田川寿美、石原詢子他に数多くの作品を提供している。